

新産地報告 (11)

上野 勝典*・上野 由貴枝*

New localities of some plants in Nagano Prefecture (11)

Katsunori Ueno and Yukie Ueno

ツカモトハコベ (ナデシコ科)

Sterallia hibinoi 写真 1

・飯田市南信濃 2015 年 7 月 19 日 NAC176356

スギ林の急斜面で、枯沢の石がゴロゴロしているところで、サワハコベによく似たツカモトハコベを見つけた。ちょうど花が咲き始めたところであった。しかし、わずか 3 株しか見当たらず、周囲をかなり念入りに探してみたものの他にみつけることができなかった。本種は芹沢俊介博士により 2015 年に新種発表されたもので、愛知県豊田市が基準標本産地とされる(芹沢 2015)。これまで確認されている産地は、愛知県のほか、三重県、大阪府で、日本固有の植物である。ツカモトハコベは地上茎が直立してほとんど分岐せず、葉が大きく、茎の先端に葉が集まってつくので、サワハコベとは容易に区別ができる。花期が 6 月下旬から 7 月と遅いのも特徴で、花は花弁が退化して無い。その後 9 月に再来したが、植物体の様子はほとんど変化がなかった。

2015 年 6 月に芹沢博士に愛知県内の本種の産地を案内していただき、生育状況を見る機会があり、特徴を認識することができた。南信濃のツカモトハコベについて写真と標本により、芹沢博士に本種であることを確認いただいた。芹沢博士によるとツカモトハコベはシカの食害に会いやすい植物とのことで、南信濃の現地も、シカの食害がひどく、以前はもっと多くのツカモトハコベが生育していたものと想像される。

カミコウチテンナンショウ (サトイモ科)

Arisaema nikoense 写真 2

・王滝村田島 600 m 2015 年 5 月 17 日

苔むした岩場に数株のカミコウチテンナンショウが咲いているのを見つけた。前年の 2014 年に、カミコウチテンナンショウと思われる植物を見つけていたが、花が終わっていたためその場で確認することができなかった。藤田 (2015) は、長野県植物研

究会の 208 回例会において、王滝村でカミコウチテンナンショウを記録したが、9 月であるため、花の確認はできていなかった。カミコウチテンナンショウはヒトツバテンナンショウに似るが、舷部はやや黒っぽい緑色を帯び、縞状の模様にならないので、花があれば間違えることはない。本種は近くでは大桑村の記録がある。日本固有の植物である(加藤・海老原 2011)。

キバナノショウキラン (ラン科)

Yoania amagiensis 写真 3、4

・飯田市南信濃 2015 年 7 月 19 日 NAC176355

スギ林を歩いていたとき、ショウキランの仲間が花を咲かせているのを見つけた。側萼片や側花弁があまり開いておらず、上向きに咲いていたことから、長野県で通常見られるショウキランやシナノショウキランではないことがわかった。キバナノショウキランである可能性があったため、根を掘って見たところ、珊瑚状に分岐した根茎が確認でき、キバナノショウキランと判明した。花も唇弁に黄色い毛があるなど、その特徴を有している(中島 2012)。国立科学博物館の遊川知久博士に写真で確認いただいた。長野県では、従来キバナノショウキランとされていた植物が、近年別種であることがわかり新種のシナノショウキランとされ、キバナノショウキランは分布しない(長野県 2002)とされていたので、今回の発見によって長野県新産となる。長野県で採取された標本はいままで無かった。キバナノショウキランは主に西日本に分布する日本固有の植物である(加藤・海老原 2011)。

クマガイソウ (ラン科)

Cypripedium japonicum 写真 5

・根羽村 2015 年 6 月 14 日

溪流脇のスギ林を歩いていたとき、クマガイソウの小群落を見つけた。すでに花期は過ぎていたものの、花の咲いた様子は見られなかった。葉の部分を食べられた跡があり、シカかイノシシに食害された

* 上野勝典・上野由貴枝

〒399-0011 長野県松本市寿北 2-2-38



写真1 ツカモトハコベ
飯田市 2015年7月19日



写真2 カミコウチテンナンショウ
王滝村 2015年5月17日

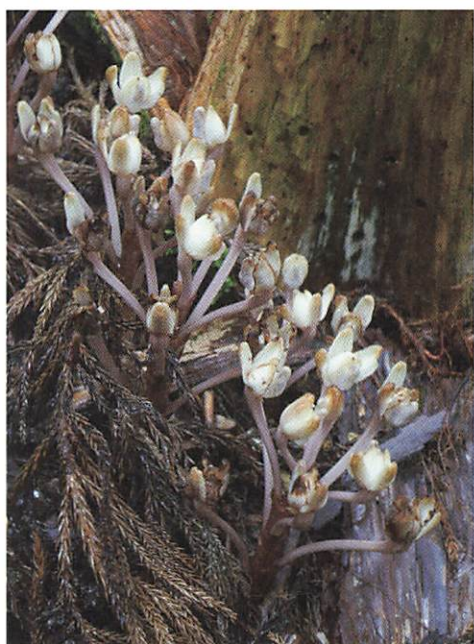


写真3 キバナノショウキラン
飯田市 2015年7月19日



写真4 キバナノショウキランの根茎
飯田市 2015年7月19日

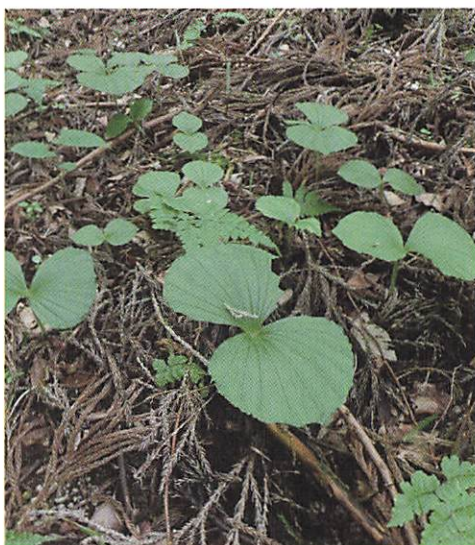


写真5 クマガイソウ
根羽村 2015年6月14日



写真6 サルメンエビネ
小谷村 2015年6月6日

ものと見られる。根羽村での記録はなく、新産地である（長野県 2002）。

サルメンエビネ（ラン科）

Calanthe tricarinate 写真 6

・小谷村 2015 年 6 月 6 日

スギ林の急斜面を歩いていたとき、黄色いエビネ類が花を咲かせているのを見つけた。花を見るとサルメンエビネであった。以前北海道で見たことがあったが、長野県では初めてであった。よく見ると周囲に数株確認できた。近くでは白馬村の記録があり（長野県 2002）、また、星山（2011）には小谷村にも分布がプロットされているため、近年小谷村で見つかったものと思われる。

謝辞

本報告の作成にあたり、貴重な助言をいただきました長野県環境保全研究所&ハーバリウム（NAC）の大塚孝一博士には、心より感謝いたします。また、キバナノショウキランの確認をしていただいた

国立科学博物館の遊川知久博士には、心より感謝いたします。ツカモトハコベの自生地へご案内いただき、また標本の同定をいただきました芹沢俊介博士には、心より感謝いたします。

引用文献

- 加藤雅啓・海老原淳編集 (2011) 日本の固有植物。東海大学出版会。
- 芹沢俊介 (2015) 本州中部産ハコベ属の 1 新種ツカモトハコベ。シデコブシ第 3 巻（第 1 号）：1-4。愛知みどりの会。
- 星山耕一著・土田勝義監修 (2011) 「信州の稀少植物と森林づくり」。オフィスエム。
- 中島睦子著・大場秀章監修 (2012) 日本ラン科植物図譜。文一総合出版。
- 長野県 (2002) 長野県版レッドデータブック 維管束植物編。長野県自然公園協会。
- 藤田淳一 (2015) 長野県植物研究会第 207 - 208 回例会報告（その 2）木曽町・王滝村の植物。長野県植物研究会誌 48：125-131。